



## 進むインドIT労働者の組織化

いとう えいいち  
伊藤 栄一

UNI - Apro・東京事務所長

インドのIT産業が曲がり角に来ている。過去怒涛の勢いで進んできたIT産業だが、ここに来て鈍化が見られる。2005～2006年インドのIT産業の売り上げは364億ドルの規模で、GDPの4.7%を占めていた。各IT企業は、労働者を引き止めるため、高額の給与を払い、ボーナスやストック・オプションで釣った。しかし今明らかに状況は変わってきている。

インフォシス・テクノロジーは、良い働きをしない労働者には「ゼロ・トレランスで臨む」との通達を出し、2100人の労働者を審査した。正確な数字は無いが、220万IT労働者の3.5～5%が職を失うかもしれないとはある専門家の計算である。これは7万7000人～11万人にあたる。

IT産業は急成長した会社が多く、インドでは人事関係がきちんと処理されていない場合が多い。例えば、ヴェギ氏だが、急成長の時代、彼はTCSで働いていたが、2つの会社から引抜があり、ウィプロを選んだ。しかしウィプロはどのプロジェクトにも彼を配置せず、数ヶ月フリープールにおかれた。そして9月彼は管理者から辞めるように言われた。

このような状況の中で注目されているのが、IT労働者を組織する組合UNITESである。U

NITESは2005年9月にムンバイで創立された。当初CBPOP（ビジネス・プロセス・アウトソーシング専門職のためのセンター）として、IT労働者が自由に集まり、意見交換するフォーラムのような形だった。これが、UNITESとして明確に労働組合の形をとったわけである。UNITESは、2006年9月350名の署名を持って、産業別組織として登録された。まずトランスアクト・ソリューションズという会社で、団体協約が結ばれた。その後サイバーストなどの戦術を駆使した結果、彼らの力によって、IBMが4万5000人中1万6000人を対象とする給料値上げの声明を出し、これが大きな成功への第一歩となった。現在6つの団体協約が結ばれている。

その後2006年12月ヒューレット・パカードで働く女性IT専門職の人権問題を取り上げ、メディアに多く取り上げられた。これでUNITESは一躍有名になった。

2008年グローバル経済危機の影響がバンガロールでも現れてきた。インドのIT企業は、米国からのアウトソーシング企業が多く、影響はもろに出た。カルティク書記長は語る。「我々は10万人以上の職が影響を受けると見積もり、対策を立ててきた。グローバル経済危機が顕著になると、ウ



ウェブサイトには毎月5万の件のヒットがあり、苦情や相談の電話も多くなった。オンライン登録によるメンバーシップも4倍に跳ね上がった。現在加盟費を支払っている正規のメンバーは2823人、その内1215人は労働協約でカバーされている人々である。」UNITE Sは個人加盟のIT専門職の組合であるが、企業別に組織化している所は、やはりコールセンターである。さらにコンサルティング、ANZ銀行などの金融機関のIT分野、ソフトウェアの専門職など、対象は広い。

困難は、組合活動に従事するとIT企業家の集団であるナスコムにブラックリスト化されてしまう点である。

しかしカルティク書記長と話していると、未来は明るく感じられる。「創立から4年間で、我々は良い基礎を作った。2011年にUNITE Sの全国大会を開催したい。その時までには、バンガロールがあるカルナータカ州、ハイデラバードがあるアーンドラ・プラデーシュ州、デリー、コーチンがあるケララ州、コルカタがある西ベンガル州で組織を作り、その集合体としてきちんとした産業別組織にもって行きたい。IT労働者の生活全体を守る組織として、自前の共済制度や住宅共済制度も持てればと考えている。」

UNITE Sの成功を基礎に、UNIはUNIDOC（UNI開発組織化センター）を活用し、さらにUNIの組織範囲にある新しい産業の組織化を行いたいと考えている。現在インドにUNIDOCは4箇所ある。ハイデラバード、バンガロール、デリー、コーチンである。バンガロールのUNIDOCは、まずキャッシュアンドキャリアのメトロ組織化で成功した商業労組のUNICOME、セキュリティガードを組織するISWOIプロジェクト、インドにとっては新しい領域である携帯電話を組織するUNITELE、民間銀行を組織するUNIFIN、ロジスティクス部門の組織化に従事するUNILogという5つのプロジェクトに従事する総勢約10名のオルグを抱えている。成功の度合いは登録で一定判断できる。登録には産業別組織で101人以上、企業別組合で10%以上の名簿が必要となるからだ。現在のところUNITE Sは組合として最も成功し、バンガロールでも同様である。次が2006年登録申請し、翌年登録を勝ち取ったUNICOMEである。

この成功のテンポを維持すれば、UNIバンガロールの未来は明るい。大きなポテンシャルを生かせるか、2010年11月に開催されるUNI長崎大会で更なる成功談を聞きたいものである。